

輸送運営上の新型コロナウイルス対策の準備状況

- **入国後14日間は、公共交通機関は原則使用不可。**東京2020が提供するバスやフリート、ハイヤー(借上げタクシー)など大会専用車両のみを使用する。
- **入国後14日間経過後は、必要な感染防止策を講じた上で公共交通機関を利用することが可能**(アスリート等を除く)。
- 入出国時や大会期間中に公共交通機関を使用予定だった海外から入国する一部の大会関係者については、代替輸送手段として大会専用のハイヤー(借上げタクシー)等による輸送サービスを提供する。
- 大会専用車両では、以下の感染防止策を徹底する。
 - ✓ マスク着用、手指消毒の徹底、会話の制限
 - ✓ 車両に応じて乗客の間のフィジカル・ディスタンスをできる限り確保
 - ✓ ドライバー席と乗客席の間のパーティション
 - ✓ 空調を通じた常時の換気
- 地方会場など遠距離にある用務先に行く必要がある場合は、航空機(チャーター機)や新幹線(一両借り)を限定的に利用する。なお、チャーター機の利用が難しい場合には専門家の意見を聞いた上で、(ア)機内において、一定の区画をおさえて、他の乗客と分離した形で搭乗すること、(イ)乗機・降機の際に他の乗客と空間的・時間的に分離すること、(ウ)搭乗前日又は当日に検査を実施することなどを条件に定期便の利用を認める。東京2020は、各ステークホルダーに対して、利用を認められたフライトや新幹線の情報を提供する。また、東京2020は、航空・鉄道会社等と連携して予約を管理し、空港・駅の利用者や他の乗客との間で適切な距離が確保されるよう対策を講じる。
- 大会関係者が利用する車両等の乗降場では、待機列でのフィジカルディスタンスを1m以上確保できるよう、その広さや利用状況に応じてフットサイン等の掲示を行う。また、マスク着用の徹底や大声での会話を避けるよう呼びかけるなどの対策を講じる。
- 輸送に携わるスタッフの感染対策についても徹底する。例えば、輸送デポ施設入口では、入場者の体温を自動で計測できる機器(サーマルカメラ)を設置し、高熱等の場合は入場を認めない。また、出入口部には、アルコール消毒液を設置し、手指消毒を徹底するとともに、食堂や休憩室における飛沫感染防止のための座席配置やパーティション設置等の対策を講じる。

大会専用車両対策(例)

【フリートの飛沫防止パーティション設置例】



【バス車内換気の実証実験】 (提供:一般社団法人東京バス協会)

- ・車内に煙を充満させ、エアコン稼働による換気の状態をモニタリングし、性能を確認
- ・窓を閉め切った状態で、観光バスタイプは約5分、路線バスタイプは約3分で車内の空気を換気(窓を開ければ、さらに短時間で換気が可能)



(換気開始)



(3分経過)



(4分経過)



(4分30秒換気終了)

公共交通の代替輸送手段(ハイヤー(借上げタクシー))の概要

- 国交省自動車局が、国の防疫措置である入国後14日間の公共交通機関不使用を受けて、帰国者等の輸送手段を適切に確保する観点から、タクシー車両をハイヤー車両に臨時的に流用する特例制度を創設(令和3年4月12日付)
 - ✓ タクシー運賃を適用
 - ✓ 表示灯(スーパーサイン)※を「帰国者専用車両」とするなど、タクシーと表示内容を区分 ※「空車」や「賃走」などを表示するタクシー前面の表示灯
- Tokyo2020は、上記の制度を活用し、公共交通機関を使用予定だった海外から入国する一部の大会関係者に対し、公共交通機関の代替輸送手段として、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会等の協力を得て大会専用車両(ハイヤー(借上げタクシー))による代替サービスを提供する。